

2 管内人口動態

(1) 人口動態統計について

ア 調査の目的と沿革

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的としている。

人口動態調査は、明治31年「戸籍法」が制定され登録制度が法体系的にも整備されたのを機会に、同32年から人口動態調査票は1件につき1枚の個別票を作成し、中央集計をする近代的な人口動態統計制度が確立された。その後、昭和22年6月に「統計法」に基づき「指定統計第5号」として指定され、その事務の所管は同年9月1日に総理庁から厚生省に移管された。さらに、平成21年4月からは、新「統計法」（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査となっている。

イ 調査の対象、客体及び抽出方法

「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象としている。また、全数調査である。

ウ 調査事項

人口動態調査票は、出生票、死亡票、死産票、婚姻票、離婚票の5種であり、その概要は次のとおりである。

- (ア) 出生票：出生の年月日、場所、体重、父母の氏名及び年齢等出生届に基づく事項
- (イ) 死亡票：死亡者の生年月日、住所、死亡の年月日等死亡届に基づく事項
- (ウ) 死産票：死産の年月日、場所、父母の年齢等死産届に基づく事項
- (エ) 婚姻票：夫妻の生年月、夫の住所、初婚・再婚の別等婚姻届に基づく事項
- (オ) 離婚票：夫妻の生年月、住所、離婚の種類等離婚届に基づく事項

エ 調査の時期

調査該当年の1月1日から同年12月31日まで

オ 調査の方法

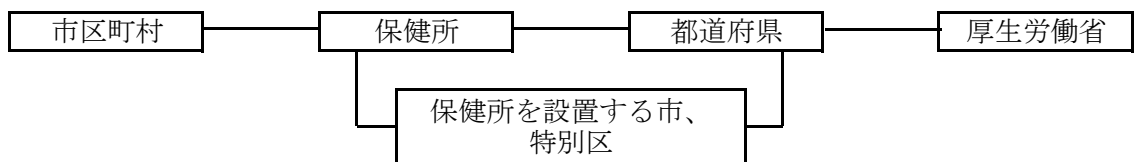
(ア) 市区町村長は、出生・死亡・死産・婚姻・離婚の届出を受けたときは、その届書等に基づいて人口動態調査票を作成し、これを保健所の管轄区域によって当該保健所長に送付する。

保健所長は、市区町村長から提出された調査票を取りまとめ、毎月、都道府県知事に送付する。

この場合、保健所を設置する市の保健所長は、当該市の市長を経由する。

都道府県知事は、保健所長から提出された調査票の内容を審査し、厚生労働大臣に送付する。

(イ) 報告の系統図



(ウ) 集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部で行う。

(2) 用語の説明及び比率の解説について

ア 自然増減・・・出生数から死亡数を減じたものをいう。

イ 乳児死亡・・・生後1年未満の死亡をいう。

ウ 新生児死亡・・・生後4週未満の死亡をいう。

エ 早期新生児死亡・・・生後1週未満の死亡をいう。

オ 死産・・・妊娠満12週（妊娠第4月）以後の死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。

* 自然死産と人工死産

人工死産とは、胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的処置（胎児又は付属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用）を加えたことにより死産に至った場合をいい、それ以外はすべて自然死産とする。

なお、人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。

(ア) 胎児を出生させることを目的とした場合

(イ) 母体内の胎児が生死不明か、又は死亡している場合

カ 周産期死亡・・・妊娠満22週（154日）以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。

キ 出生・死亡・婚姻・離婚率

(年間事件数÷10月1日現在人口)×1,000

ク 自然増加率

{(年間出生数－年間死亡数)÷10月1日現在人口}×1,000

ケ 死産率

{年間死産数÷(年間出生数＋年間死産数)}×1,000

コ 乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率

(年間死亡数÷年間出生数)×1,000

サ 周産期死亡率

{年間周産期死亡数÷(年間出生数＋年間妊娠満22週以後の死産数)}×1,000

シ 合計特殊出生率

合計特殊出生率とは、15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子供の数に相当する。

[年齢別出生数(5歳階級別)÷年齢別女子人口(5歳階級別)]の総和(15～49歳までの7階級)×5

(3) 結果の公表などについて

おおむね、毎年9月上旬ごろに前年の人口動態調査の確定数が公表される。詳細については、厚生労働省のホームページを参照のこと。

(参) <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

また、毎年10月上旬ごろ、保健所概要作成目的での人口動態調査票情報が提供される。これを受けて、管内死因別死亡者数などを作成、公表する。

なお、保健所概要の公表時期は毎年8月ごろを目処としているため、確定数の公表は、当保健所ホームページ上で行う予定である。

(4) 人口動態統計の概要

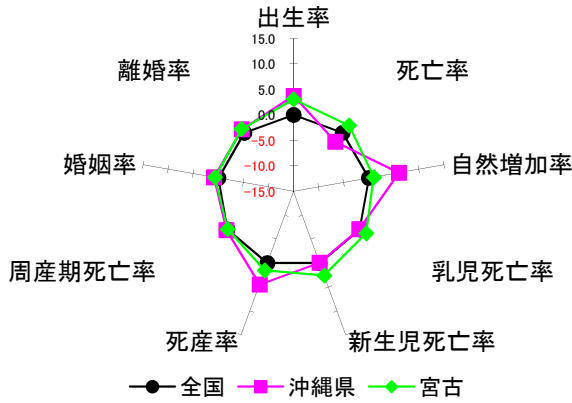
* 人口動態については前年の数値を計上。確定値は宮古保健所ホームページにて公表予定。

平成28年

項目	実数(人、組)			率(%)			沖縄県 全国順位
	全国	沖縄県	宮古	全国	沖縄県	宮古	
出生	976,978	16,617	564	7.8	11.6	10.9	1位
死亡	1,307,748	11,706	646	10.5	8.2	12.4	47位
自然増減	-330,770	4,911	-82	-2.6	3.4	-1.6	-
乳児(生後1年未満)死亡	1,928	31	2	2.0	1.9	3.5	33位
新生児(生後4週未満)死亡	874	14	2	0.9	0.8	3.5	27位
死産	20,934	434	13	21.0	25.5	22.5	3位
自然死産	10,067	213	3	10.1	12.5	5.2	-
人工死産	10,867	221	10	10.9	13.0	17.3	-
周産期死亡	3,516	63	2	3.6	3.8	3.5	15位
妊娠満22週以後の死産	2,840	52	0	2.9	3.1	-	-
早期新生児死亡	676	11	2	0.7	0.7	-	-
婚姻	620,531	8,464	296	5.0	5.9	5.7	2位
離婚	216,798	3,700	139	1.7	2.6	2.7	1位

(出典) 平成28年沖縄県人口動態統計(確定数)の概況(H29.9月公表)

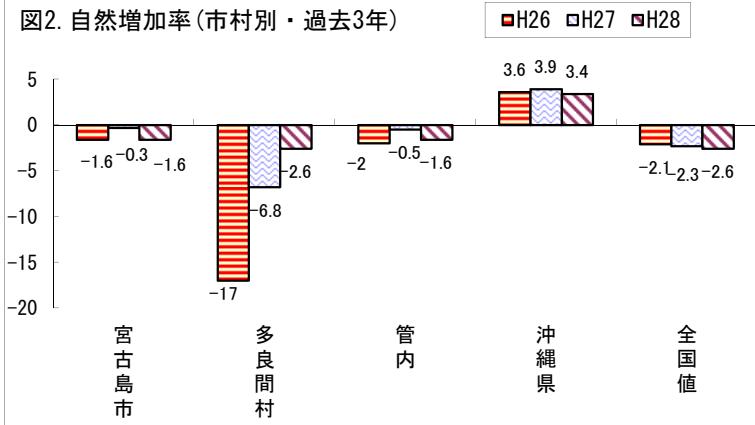
図1. 人口動態レーダーチャート(平成28年)



人口動態統計で使用される主な指標を用いて、全国を基準として沖縄県及び宮古管内の値がどの位置にあるのかを示している。

宮古管内の死亡率は全国、全県と比較して人口の高齢化を反映して高い。乳児死亡率及び周産期死亡率は、全国より低い。

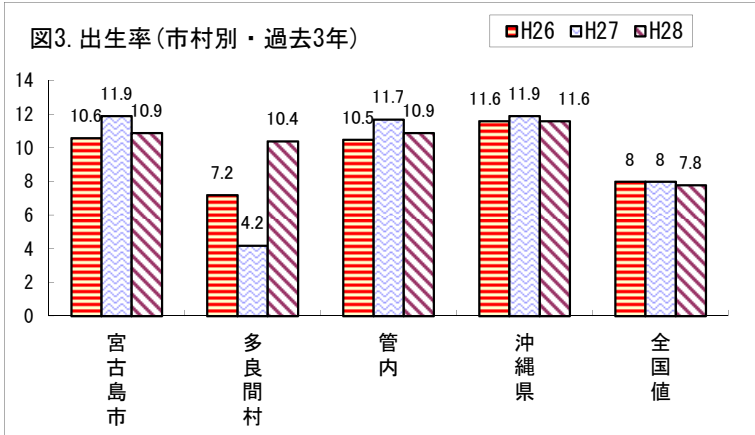
図2. 自然増加率(市村別・過去3年)



自然増加率の動向

管内は、増加傾向にある沖縄県と対照的に年々減少傾向にある。平成26年・27年・28年と続けて減少している。

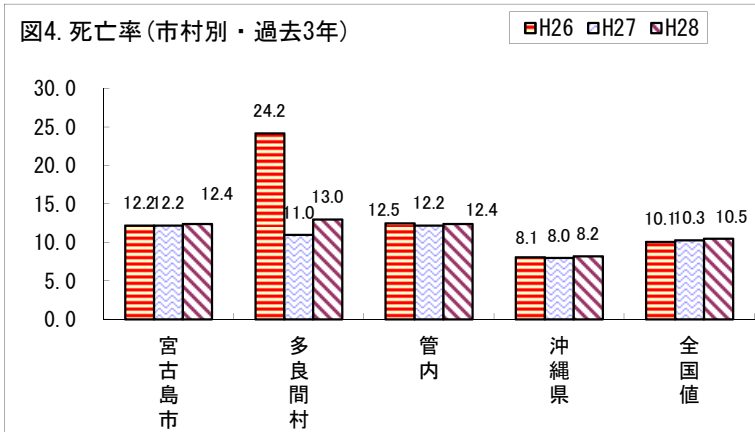
図3. 出生率(市村別・過去3年)



出生率の動向

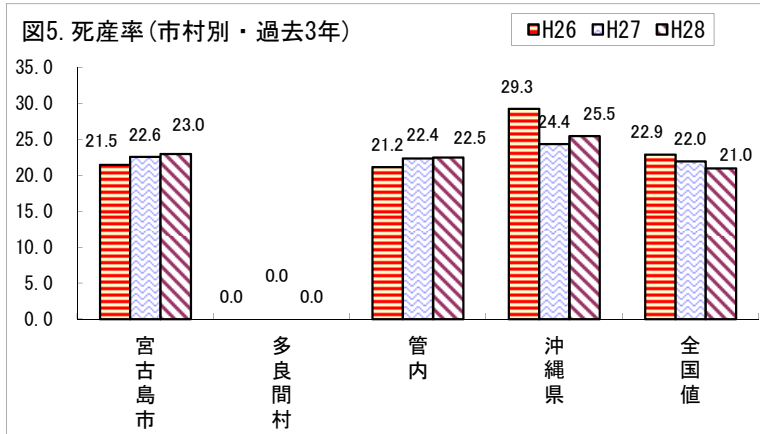
管内出生率は、沖縄県と比べると若干低いが、全国値を大きく上回っている。全国値は、H28年度に若干減少している。

図4. 死亡率(市村別・過去3年)



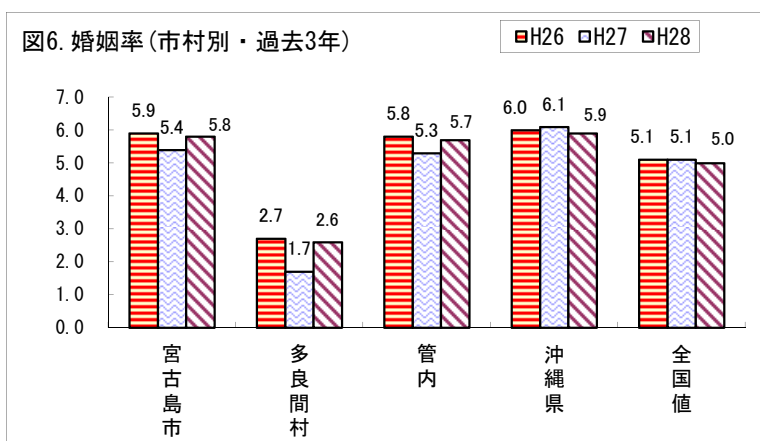
死亡率の動向

管内の死亡率は、全国値及び沖縄県と比較すると人口の高齢化を反映して、高い数値となっている。全国値は平成26年以降若干の増加傾向にある。



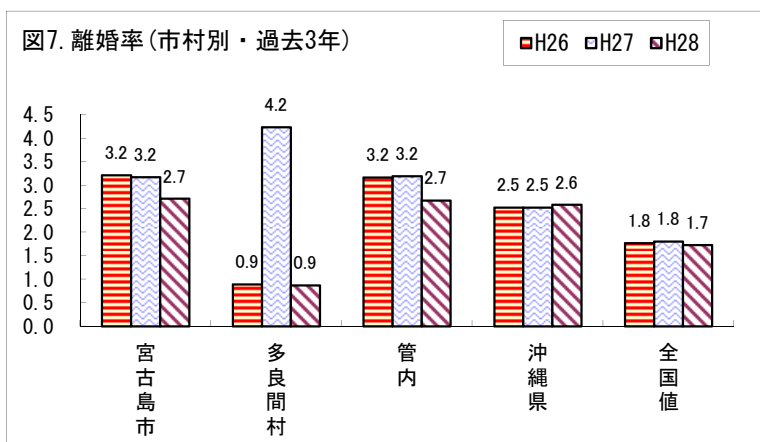
死産率の動向

管内の数値は、平成26年以降の県の数値を下回っているが若干増加している。全国値については、平成26年以降減少傾向にある。



婚姻率の動向

管内の数値は、平成26年と比較すると減少しているが、平成26年以降は、管内・県ともに全国値を上回っている。



離婚率の動向

管内離婚率は平成28年に減少してはいるものの、全国値よりも高い数値となっている。

(5) 平成28年人口動態総覧(市村別)

* 人口動態については前年の数値を計上。確定値は宮古保健所ホームページにて公表予定。

ア 人口動態総覧

単位：人、件

項目 市村	出生児数			(再掲) 低体重児数(*)			死亡者数			(再掲) 乳児 死亡者数			(再掲) 新生児 死亡者数			死産胎数			周産期 死亡数			婚姻 件数	離婚 件数
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	自然	人工	計	後期	早期	計		
	宮古島市	288	264	552	25	31	56	340	291	631	0	2	2	0	2	2	3	10	13	0	2		
多良間村	9	3	12	1	0	1	12	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
管内	297	267	564	26	31	57	352	294	646	0	2	2	0	2	2	3	10	13	0	2	2	296	139

* 低体重児数については、確定値の公表がないため概数値で計上している。

- 低体重児：2,500g未満の出生児
- 乳児死亡：生後1年未満の死亡
- 新生児死亡：生後4週未満の死亡
- 死産：妊娠満12週以後の死児の出産
- 周産期死亡 後期：妊娠22週以後の死産
- 周産期死亡 早期：生後1週間未満の死亡

(出典)平成28年沖縄県人口動態統計(確定数)の概況(H29.9月公表)

イ 人口動態総覧(率)

単位：‰

項目 市村	出生率	死亡率	(再掲)		死産率	周産期 死亡率	婚姻率	離婚率	
			乳児死亡率	新生児死亡率					
宮古島市	H27年	11.9	12.2	-	-	22.6	-	5.4	3.2
	H28年	10.9	12.4	3.6	3.6	23.0	3.6	5.8	2.7
多良間村	H27年	4.2	11.0	-	-	-	-	1.7	4.2
	H28年	10.4	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.9
管内	H27年	11.7	12.2	-	-	22.4	-	5.3	3.2
	H28年	10.9	12.4	3.5	3.5	22.5	3.5	5.7	2.7

(出典)平成28年沖縄県人口動態統計(確定数)の概況(H29.9月公表)

(6) 管内合計特殊出生率(平成18~28年)

* 人口動態については前年の数値を計上。確定値は宮古保健所ホームページにて公表予定。

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
宮古管内	2.06	2.18	2.05	2.24	2.28	2.42	2.16	2.11	2.57	2.32
沖縄県	1.75	1.78	1.79	1.87	1.86	1.90	1.94	1.86	1.96	1.96
全国	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44

(出典)①沖縄県及び全国：平成28年沖縄県人口動態統計(確定数)の概況(H29.9月公表)

②管内：未公表のため、当保健所において算出した。

※合計特殊出生率とは、15歳~49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子供の数に相当する。

計算式：〔年齢別出生数(5歳階級別)÷年齢別女子人口(5歳階級別)〕の総和(15~49歳までの7階級)×5

※年齢別出生数(5歳階級別)については、平成28年人口動態調査結果(確定数)出生表5-1-47「出生数,性・母の年齢(5歳階級)・都道府県・保健所別」(厚労省HP参照)を参照した。

※平成17年~平成21年の基準女子人口は平成17年の国勢調査資料を、平成22~平成26年の基準女子人口は平成22年の国勢調査資料を、平成27年以降の基準女子人口は平成27年の国勢調査資料を参照した。

(7) 人口動態総覧の年次推移(管内分)

* 人口動態については前年の数値を計上。確定値は宮古保健所ホームページにて公表予定。

単位：人、組

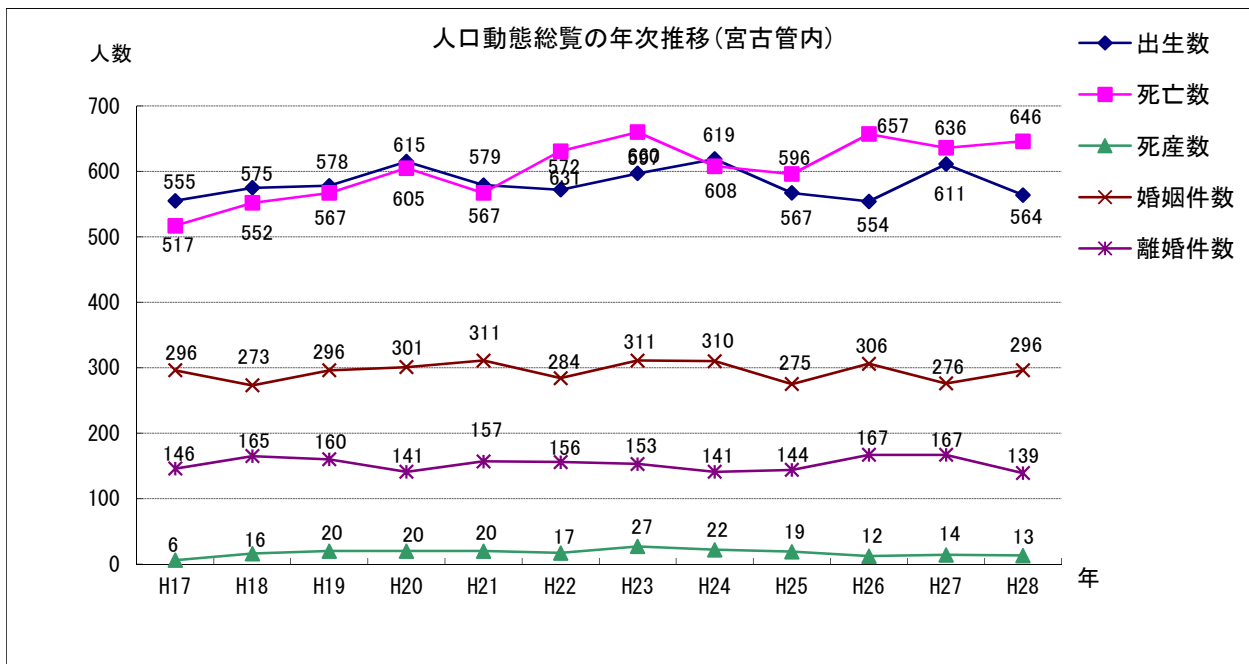
	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	対前 年比
管内人口	55,186	55,187	54,021	53,626	53,478	53,452	53,209	53,122	53,036	52,732	52,441	52,164	-277
出生数	555	575	578	615	579	572	597	619	567	554	611	564	-47
男	280	288	309	304	295	310	305	300	293	300	314	297	-17
女	275	287	269	311	284	262	292	319	274	254	297	267	-30
死亡者数	517	552	567	605	567	631	660	608	596	657	636	646	10
男	297	275	292	328	323	343	346	329	322	341	323	352	29
女	220	277	275	277	294	288	314	279	274	316	313	294	-19
乳児 死亡者数	6	2	1	1	1	5	1	2	0	1	0	2	2
男	4	0	1	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0
女	2	2	0	1	1	2	1	1	0	1	0	2	2
新生児 死亡者数	5	1	1	0	1	3	1	1	0	0	0	2	2
男	4	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
女	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	2
死産胎数	6	16	20	20	20	17	27	22	19	12	14	13	-1
自然	1	9	12	10	11	8	8	8	4	4	2	3	1
人工	5	7	8	10	7	9	19	14	15	8	12	10	-2
周産期 死亡数	2	2	2	2	5	5	2	4	1	1	0	2	2
後期	0	2	2	2	5	3	2	4	1	1	0	0	0
早期	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2
婚姻 件数	296	273	296	301	311	284	311	310	275	306	276	296	20
離婚 件数	146	165	160	141	157	156	153	141	144	167	167	139	-28

※太字下線付は、平成17年～平成28年までの最高値を表している。

※管内人口については、各年10月1日時点。

(出典)①管内人口：沖縄県企画部統計課HP「沖縄県統計資料WEBサイト」

②その他：平成28年沖縄県人口動態統計(確定数)の概況(H29.9月公表)



(8) 死亡の状況

* 人口動態については前年の数値を計上。確定値は宮古保健所ホームページにて公表予定。

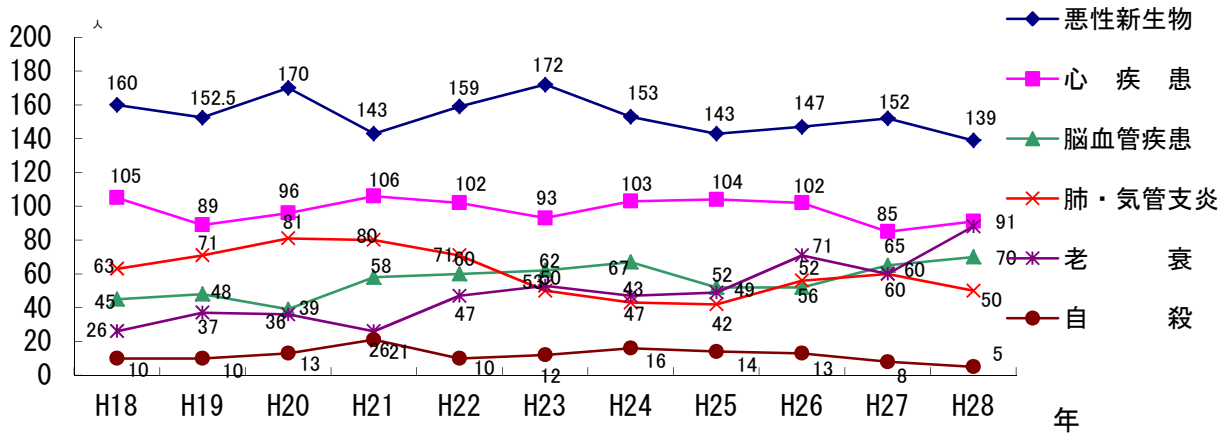
ア 死亡者数(死因別、市村別) 平成28年

死 因	総数	宮古島市	多良間村
結 核	1	1	0
悪性新生物	139	136	3
糖 尿 病	7	7	0
高血圧性疾患	7	7	0
心 疾 患	91	90	1
脳血管疾患	63	61	2
肺炎・気管支炎	50	49	1
胃・十二指腸潰瘍	2	2	0
肝 疾 患	11	10	1
腎 不 全	12	12	0
老 衰	88	87	1
不慮の事故	21	20	1
自 殺	5	5	0
そ の 他	149	144	5
合 計	646	631	15

イ 死亡者数(年代別、市村別) 平成28年

年代	総数	宮古島市	多良間村
10歳未満	2	2	0
10歳-19歳	2	2	0
20歳-29歳	1	1	0
30歳-39歳	1	1	0
40歳-49歳	8	8	0
50歳-59歳	31	29	2
60歳-69歳	69	68	1
70歳-79歳	98	95	3
80歳-89歳	227	224	3
90歳以上	207	201	6
合 計	646	631	15

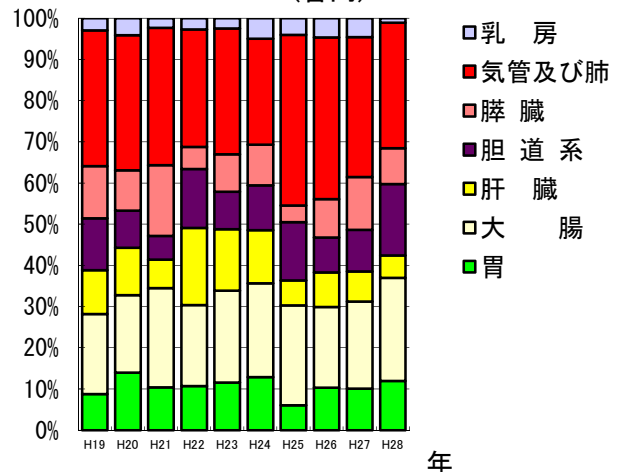
管内死因別死亡数の推移



ウ 悪性新生物死亡者数(部位別、市村別：平成27年・平成28年)

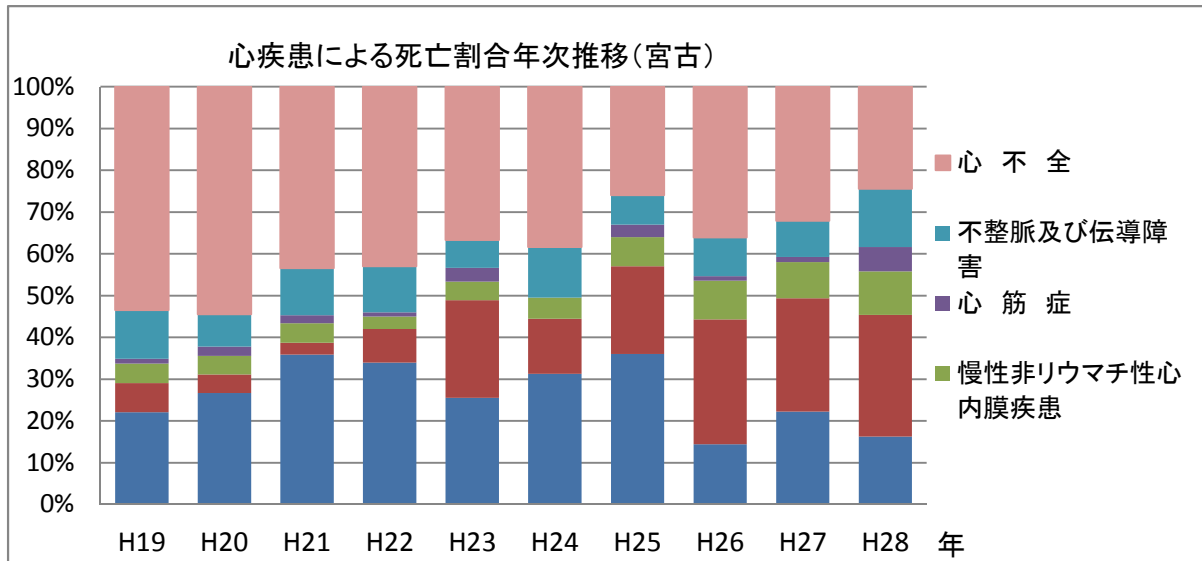
悪性新生物 部 位	総数		宮古島市		多良間村	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
食 道	2	6	2	5	0	1
胃	11	11	11	11	0	0
結 腸	12	16	12	16	0	0
直 腸	11	7	11	7	0	0
肝 臓	8	5	8	5	0	0
胆 道 系	11	16	10	16	1	0
膵 臓	14	8	13	8	1	0
気管及び肺	37	28	35	28	2	0
乳 房	5	1	5	1	0	0
子 宮	3	5	3	5	0	0
白 血 病	5	1	5	1	0	0
そ の 他	33	35	32	33	1	2
合 計	152	139	147	136	5	3

悪性新生物部位別死亡者割合年次推移 (管内)



エ 心疾患による死亡者数(種別、市村別：平成27年・平成28年)

死 因	総数		宮古島市		多良間村	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
慢性リウマチ性心疾患	3	1	3	1	0	0
急性心筋梗塞	18	14	17	14	1	0
その他の虚血性心疾患	22	25	22	25	0	0
慢性非リウマチ性心内膜疾患	7	9	6	9	1	0
心筋症	1	5	1	4	0	1
不整脈及び伝導障害	7	12	7	12	0	0
心不全	26	21	26	21	0	0
その他の心疾患	1	4	1	4	0	0
合 計	85	91	83	90	2	1



オ 脳血管疾患による死亡者数(種別、市村別：平成27年・平成28年)

脳血管疾患 死因種別	総数		宮古島市		多良間村	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
くも膜下出血	11	7	11	7	0	0
脳内出血	16	23	14	22	2	1
脳梗塞	41	32	41	31	0	1
その他の脳血管疾患	2	1	2	1	0	0
合 計	70	63	68	61	2	2

